

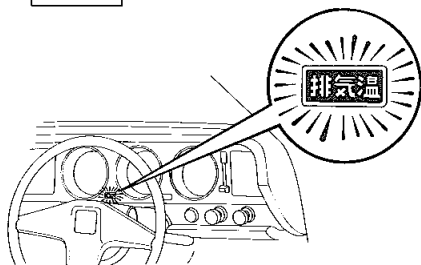
排出ガス浄化性能の維持のために

★ガソリンを補給するときは

必ず無鉛レギュラーガソリンを補給しましょう。



★排気温 警告灯が点灯したときは



触媒装置の温度が高くなったことを示します。

このままで運転を続けると触媒装置の浄化性能を損う恐れがありますので必ず次の処置をしてください。

1. 走行中は速度を落してください。
警告灯が点灯した時の、半分程度に速度を落して走行してください。
普通は数分内に消灯します。

2. 停車中は、エンジンを止めて冷却するまで放置してください。

その後、警告灯が消灯した場合はものように走行できます。たびたび点灯する場合は、そのまま使用せず、サービス工場での点検整備を受けてください。

★シート・ベルトは

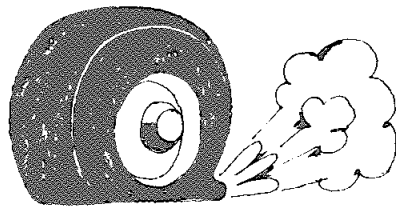
必ず装着して運転しましょう。
特にベルトは腰骨の位置にピッタリと装着しましょう。
(シート・ベルトを忘れずにの項目参照)



腹の位置にかけると万-のとき身体にくいこみ危険です。

★タイヤは

1. 走行前に必ず空気圧を点検しましょう。
(タイヤの空気圧の項目参照)
2. 摩耗して溝が浅くなったら取り替えましょう。(タイヤの溝の深さの項目参照)



走行中、パンクやバーストを起こしやすくなり危険です。

これだけはぜひ！
守りましょう！

★長い坂道を下る場合は

エンジン・ブレーキを活用しましょう。
(ブレーキ、クラッチの使い方の項目参照)

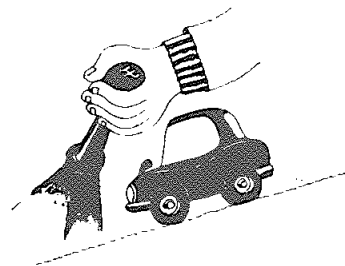
フット・ブレーキを踏み続けるとブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。

★ヘッド・レストの位置は

ヘッド・レストの間はにぎりこぶしの幅以上あげないようにしましょう。

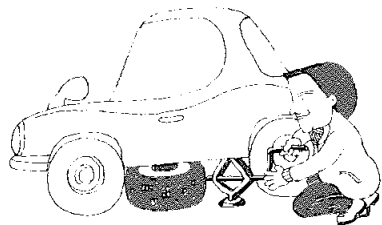


正しい位置にしないと危険防止に役立ちません。



★ジャッキを使用するときは

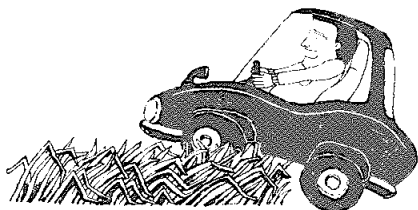
所定の位置に確実にセットしましょう。
輪止め、パーキング・ブレーキを忘れずに。
(パンクの処置の項目参照)



ジャッキがはずれると車が急に傾き大変危険です。

★駐停車するときは

1. 枯草など燃えやすいものの付近や上に車を乗り入れたり、駐停車しないでください。



排気管付近はかなり高い温度になるので、万-の場合枯草などに着火する危険があります。

★注意

やむを得ず枯草などの中に乗り入れて、駐停車する場合は

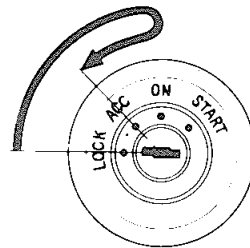
- (1) エンジンを必ず止めてください。
 - (2) 走行する前に、枯草などの可燃物が排気管に巻きついたりしていないか点検してください。
2. 密閉した車庫内などで、エンジンをかけたままにしないでください。

★走行中エンジン・キーを切らないでください。

1. ブレーキ・ブースタが作用しないのでブレーキの効きが悪くなります。
2. パワー・ステアリング付き車はハンドル操作が重くなります。
3. 触媒装置に損傷を与えることがあります。

★エンジンを停止して移動する場合は (けん引される場合など)

1. エンジン・スイッチは一度ONにしてからACCの位置にしましょう。

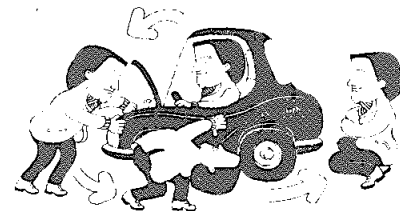


走行中はキーを絶対にロックの位置までまわさないでください。
危険です。

2. ブレーキは、ほとんど効きませんので通常より大きな踏力が必要です。

★仕業点検は

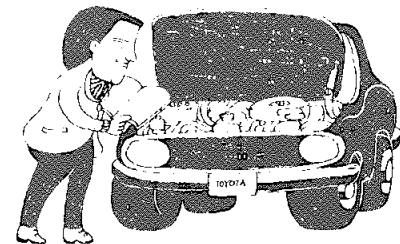
故障を未然に防ぐため、必ず行ないましょう。
(仕業点検の項目参照)



★定期点検は

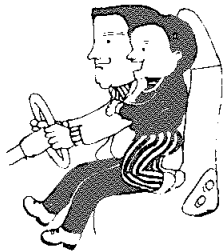
法令でも定められていますので整備手帳に基づいて必ず行ないましょう。

車の性能を維持し安全に運転していただくためには大切なことです。



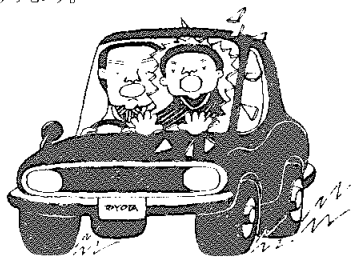
お子様を乗せる とき

★なるべくおとなと一緒にリヤ・シート
にすわらせましょう。

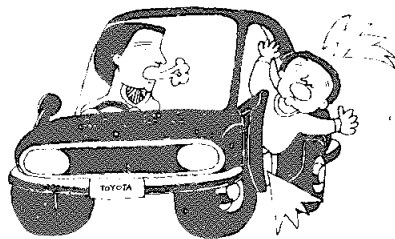


助手席ではドライ
バーのじゃまにな
ります。

万一のとき放り
出される心配が
あります。



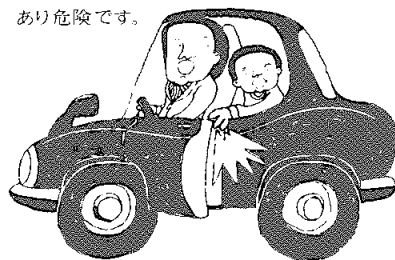
★ドアのロックを確実にしましょう。



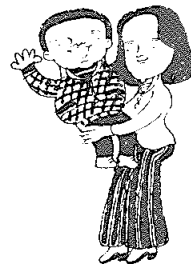
ロックをすれば、ドア・インサイド・レバー
をいじっても、ドアは開きません。

★必ずおとながドアの開閉をしましょう。

お子様が手を
はさむ場合が
あり危険です。



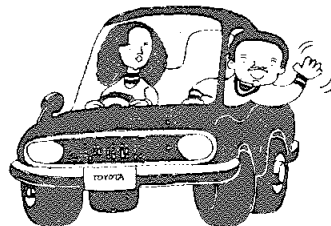
★車から離れるときは、お子様と一緒に
連れてゆきましょう。



室内にお子様を残しておくと思いがけ
ない事故が起きる場合があります。

★窓から顔や手などを出させないように
しましょう。

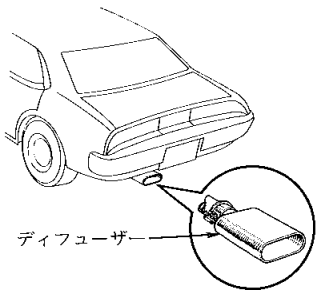
思いがけないケガをすることがあります。



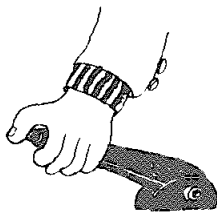
故障を防ぐために

★排気管出口についているディフューザーについて

ディフューザーは排気ガスの温度を下げるためのものですから、取りはずしたり改造しないでください。またディフューザーが損傷した場合は、サービス工場での整備を受けてください。

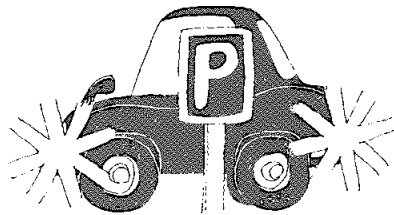


★パーキング・ブレーキ・レバーは走行する前に必ず確実にともでもとし、インジケーター・ランプが消灯するのを確かめましょう。
(パーキング・ブレーキ・レバーの項目参照)



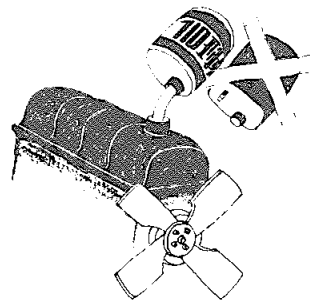
ひいたまま走行するとひきずりを起こしブレーキが効きにくくなります。

★バッテリーは完全充電でもエンジンを停止してランプ類を使用すると消耗が激しいものです。



バッテリーがあがりエンジン始動ができなくなることがあります。

★エンジン・オイルの補給は同品質のオイルを使用しましょう。
(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)



エンジン・オイル添加剤や質の異なったオイルを補給すると、性能が低下する恐れがあります。

★ブレーキ、クラッチ・フルードを補給するときは

同品質、同銘柄のフルードを必ず使いましょう。なお、タンク内にゴミがはいらないように十分注意しましょう。
(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)

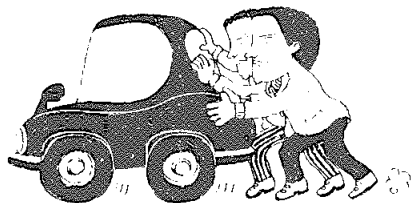


ゴミがはいるとブレーキが効かなくなったり、クラッチが切れなくなることがあります。

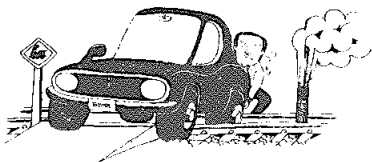
万一のときは――

■エンジンを始動できなくなったときは

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押しもらってください。



2. マニュアル・トランスミッション車の場合、急を要するときはスターターで抜け出してください。ギヤをセカンドまたはサードに入れ、スターターをまわします。
この時クラッチから足を離しておきます。また平坦路の場合はトップにすると早く抜け出せます。
3. 踏み切りなどで動けなくなったり、電車が来そうになったら保安炎筒で合図してください。



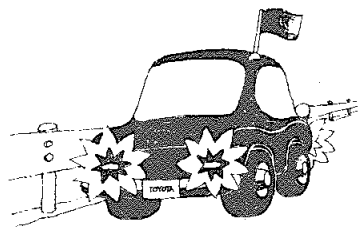
★高速走行中、パンクやバースト（タイヤの空気が急に抜けること）したとき。

ハンドルをしっかりとって急ブレーキは踏まないようにしましょう。

急ブレーキを踏むとハンドルを強くとられ、車が横転することがあります。

★故障したら

車を路肩に寄せハザード・ウォーニング・ランプを点滅させるか、または故障車とわかるように赤旗などを目につくよう表示します。



★遠出して故障し、なおせないときは整備手帳のサービス網をご覧になって、最寄りの取扱店へ連絡しましょう。